



野州足利本坂町

清水庵

至道

親者理和法抄序

史妙法蓮花經の三世法王出世の事
みすけ年北極建なりかたゆへに
とや法王中主宮者すくす中ふと
あひ二千八百の骨體を要ふれ
乃周乃釈王のえるにのりく
四句の文とありて
てり無常なり
乃仙人とあり

今時ふあまをなほすれりめこ井にけんめいぬきぬきとて
とて今ふあまをなほすれりめこ井にけんめいぬきぬきとて

二十

いふふふふふふ

[illegible]

佛告無盡意菩薩善男子若有無量百千

いんぐりどれ 福徳之利のふりまてらんわんのつぎにれふあす
あやめいあんいふさういふさうかへに置 いんぐり 長男さへらんわんの

利便のしるしとて、
受諸苦惱

聞是觀世音菩薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其

ふん孫^{ひこ}をくらふ孫^{ひこ}んくとうぞくしあふよのんをまう
ふんとふんを思^{おも}ひあふんぞくをかんよふ也^{なり}智^ち考^{かう}大^{だい}

[illegible]



風和

若有持是觀世音菩薩名者設入大火火不能燒由

是菩薩威神力故

の世にたぐひの長舒といふをとりてむくよと化すすむひせりある所をのりて

わが家には下まれのうぶさうありしよあんなあんなに今なれば一五人に

よつて年々いふに如きなり其のすゝめらるゝを以て

まゝのうちにいそいそとあつた風をきかす。二夜中元あつたけ

主入るる所なり
 乃國はすありて
 神人の

けりしにあらわさぬよ大いそきなりやそきいふんてふとくふ

せむれいしうまにうらまらふにやうに又信智とふ人ありしひろ世と

にありし其末はあひくはれつるべしきなりと聞ふは多んと念

しきんぐの親もとへいそつてゐる。いふに大工とせよ。おんのおやうとに

朝ふくしなみちを
 けりてふれどに
 ちりたるまゝに
 けりてふれどに

六種火より燃れたるをまんげといふなり

若爲大水所漂稱其名号即得淺處

三
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

ちりその阿利達アリダうぬぬ兜ツツのうぬぬツツのうぬとちりひまハな

まづより作^うててはぬらひをのぞく事^{こと}とぞなりぬ

若有百千萬億衆生爲求金銀瑠璃磲磔碼碼珊瑚
眞珠等寶入於大海假使黑風吹其舩舩飄墜

羅刹鬼國其中若有乃至一人稱觀世音菩薩名者

是諸人等皆得解脫羅刹之難以是因緣名觀世音





七飛

若三千大千國土滿中夜叉羅刹欲來惱人聞其稱

觀世音菩薩名者是諸惡鬼尚不能以惡眼視之况

復加害

復加害

いりん鬼取との命況あり 廿八 夜更さるやまきふりて六
 夜より二つよをふれり三つよいたふこらせりといふおの夢をこらせり
 つつとて食人鬼を奪情鬼とてあらこせりとあらり人のあらはとあらひりぬ
 鬼いりせいにうんの怪鬼とてふ夢やいふのじれぬおのあめわりり人
 とあらめいなりやうふ夢やせいのあめとてふけうふとせぬんとてあら







四十八
 四十七
 四十六
 四十二
 四十
 三十八
 三十六
 三十四
 三十二
 三十
 廿八
 廿六

三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事
 三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事
 三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事
 三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事

廿七
 廿九
 三十一
 三十三
 三十五
 三十七
 三十九
 四十一
 四十三
 四十五

三つの事
 二つの事
 一つの事
 三つの事
 二つの事
 一つの事
 三つの事
 二つの事
 一つの事
 三つの事
 二つの事
 一つの事

三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事
 三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事
 三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事
 三つりんの事
 二つりんの事
 一つりんの事

若有衆生多於娑婆欲常念恭敬觀世音菩薩便得離
 欲若多瞋恚常念恭敬觀世音菩薩便得離瞋若多
 愚癡常念恭敬觀世音菩薩便得離癡無盡意觀世
 音菩薩有如是等大威神力多所饒益是故衆生常
 應心念
 三 願志





無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何遊此娑

婆世界云何而爲衆生說法方便之力其事云何



よめり八相をさだむるを説くといふなり

四十 應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法
應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法
應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為說法

五十 應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法

應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法
應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法
應以聲聞身得度者即現聲聞身而為說法

六十 應以梵王身得度者即現梵王身而為說法

應以梵王身得度者即現梵王身而為說法
應以梵王身得度者即現梵王身而為說法
應以梵王身得度者即現梵王身而為說法

七十 應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法

應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法
應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法
應以帝釋身得度者即現帝釋身而為說法

八十 應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

應以自在天身得度者即現自在天身而為說法
應以自在天身得度者即現自在天身而為說法
應以自在天身得度者即現自在天身而為說法

九十 應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法

應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法
應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法
應以大自在天身得度者即現大自在天身而為說法

十 應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法
應以天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

法 天大將軍身得度者即現天大將軍身而為說法

應以毘沙門身得度者即現毗沙門身而為說法

應以小王身得度者即現小王身而為說法

應以長者身得度者即現長者身而為

說法

長者身得度者即現長者身而為說法

應以居士身得度者即現居士身而為說法

應以宰官身得度者即現宰官身而為說法

應以宰官身得度者即現宰官身而為說法



應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而為說法

然其法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比

丘比丘尼優婆塞優婆夷身而為說法

然其法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦

女身而為說法

然其法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。

應以童男童女身得度者即現童男童女身而為說

法

然其法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。若人欲得度者。當先求其心。若心已定。則法自現。此法也。

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅毘舍遮那羅摩睺

羅伽人非人等身得度者即皆現之而為說法

たのうれ天とつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
あめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
天人宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
自天宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
つていはいとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
みんがにふりひとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
わのくやとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ありまの北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ふまはくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
わ三凱あめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ありまの北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八

應以執金剛神得度者即現執金剛神而為說法

執金剛神とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ひのりんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
あめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ありまの北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
わ三凱あめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ありまの北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ふまはくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
わ三凱あめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八
ありまの北国宮殿とてあめくうれんちとつぬふけ天とて八天とてあはれあひひとて七とて九とて八



無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種

種形遊諸國土度脫衆生

ひりくおきくは是すかひに別とひす
ひえきとくくは女乳如是功徳とひ

本三才のひもひとめこひ終くねといふ字と男にひつゝを男とていふ
 とあるといふあるなり 関ては男の才と男の才と男といふなり男の
 才と男といふの才と男といふなり男の才と男といふなり男の才と男
 といふなり又或る才と男といふなり男の才と男といふなり男の才と男
 といふなり男の才と男といふなり男の才と男といふなり男の才と男

ひつぎれ衣のしほ

三十三卷の心成一乃小願より下

うづのわくちのう

化他をくの下
三十一
さうの事

三十二
とらうれやのう

あゝんの上
三
あゝんの下

文宣の薨と病とあつてんせざるものす

うしろさうびんの

今んむんきし事

八まんぼん公事

四二

ひさる公事

あはれとてら
の事

是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀世音菩薩

摩訶薩於怖畏急難之中能施無畏是故此娑婆

世界皆号之爲施無畏者

世名とてさうは横はありひくゝそ今らんぬとてやせ下さすめまゝ
後世を憂ふひきやとて甘くはあひくぢらんぞぐりあつた物なれり

免とてくろのたれあふへにせ主長いとてえんとんけり
む上いがさうまのやうなうへにえんれいもまゐるにえんせんと
 免とてくろのたれあふへに主長とてえんとんけり

無盡慈悲菩薩上佛言世尊我今當供養觀世音菩薩

良解。玳瑁寶珠璫。瑤價直百千兩金。而以與之作是

言仁者受此法施珍寶瓔珞時觀世音菩薩不肯受



らんをゆふすふとあふくころ人のぶくちをどのおんておこし
わくしゝたふはあはれ果てたあふくちをどのおんておこし
おんておこしあふくちをどのおんておこし
おんておこしあふくちをどのおんておこし
おんておこしあふくちをどのおんておこし

三十

假使興害意推落大火坑 念彼觀音力火坑變成池

四十

或漂流巨海龍魚諸鬼難 念彼觀音力波浪不能沒

五十

或在須彌峯爲人所推墮 念彼觀音力如日虚空住

六十

或被惡人逐墮落金剛山 念彼觀音力不能損一毛

七十

或值怨賊繞各執刀加害 念彼觀音力咸即起慈心

八十

或遭王難苦臨刑欲壽終 念彼觀音力刀尋段段壞



ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

或囚禁枷鎖手足被桎械念彼觀音力釋然得解脫

ひりんはまふをけけ枷鎖のあれんとおもふなり

咒咀諸毒藥所欲害身者念彼觀音力還著於本人

ひりんのまふをけけのあれんとおもふなり

或遇惡羅刹毒龍諸鬼等念彼觀音力時悉不敢害

ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

若惡獸圍繞利牙爪可怖念彼觀音力疾走無邊方

ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

三蛇虺及蝮蠍氣毒烟火燃念彼觀音力尋聲自迴去

ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

雲雷鼓剋旱電降雹澍大雨念彼觀音力應時得消散

ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

衆生被因厄無量苦逼身觀音妙智力能救世間苦

ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

具足神通力廣修智方便十方諸國土無刹不現身

ひりんはまふをけけまらんのあれんとおもふなり

具足神通力廣修智方便十方諸國土無刹不現身

具足神通力廣修智方便十方諸國土無刹不現身

びんのふくすのまじれゆかりあるをみても三才の力のみとて
まじりては神がたふさるるまじりては神の力のみとて
まじりては神の力のみとて

七元

種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅

びんのふくすのまじれゆかりあるをみても三才の力のみとて
まじりては神がたふさるるまじりては神の力のみとて
まじりては神の力のみとて

八元

真觀清淨觀 廣大智慧觀 非觀及慈觀 常願常瞻仰

びんのふくすのまじれゆかりあるをみても三才の力のみとて
まじりては神がたふさるるまじりては神の力のみとて
まじりては神の力のみとて

九元

無垢清淨光 慧目破諸闇 能伏災風火 普明照世間

びんのふくすのまじれゆかりあるをみても三才の力のみとて
まじりては神がたふさるるまじりては神の力のみとて
まじりては神の力のみとて



具一切功德慈眼視衆生
福聚無量是故應頂禮

くつゝいふてはうんといはんせんまゐりあやうにふれなくとて
くつゝいふてはうんといはんせんまゐりあやうにふれなくとて
法眼たけ智とめく親接の舞のあいさうなるひんのなせ
いつとやくしきあるに四くちありむじもすゝはる舞あやうさあるなり
その中に居候石殿のとくありうき世間をみられいまは天女舞あやうは
うき世間をみられいまは天女舞あやうは

爾時持地菩薩即從座起前白佛言世尊若有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門示現神通力者

當知是人功德不小
 けりんのふらんらんらんをさるる
 とわくふとあらわらんらんらんをさるる

と標新ひらかへちあらわさるゝをたはなれり

佛說是普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等

阿耨多羅三藐三菩提心

けんの石をかくとて殺せり
 四十一 八方はさへいふのたれいあん

三つめのやういふはあせす初^{はつ}めもかけなれどなほ^{なほ}高^{たか}直^{ちよく}殿^{どの}
 とんちやうのくまけやんはまはえらび下^{くだ}らんせやんやうのむさ
 せやんやうのくまけやんはまはえらび下^{くだ}らんせやんやうのむさ
 せや

○毎月大目にえんえんの酒名をとりふれかれつゝ或は足取
りえんや半生としたりすゝあはれなりとさうもいふれえんえん（糸落せ
びり）といひやうやくとさういふやうなやうにえんえん
（又えんえん）毎月糸落すき目のもの

正月朔日	百日よびふ	二月朔日	百日よびふ
二月朔日	九十日よびふ	三月朔日	八十日よびふ
三月朔日	百日よびふ	四月朔日	七十日よびふ
四月朔日	百日よびふ	五月朔日	六十日よびふ
五月朔日	百日よびふ	六月朔日	五十日よびふ
六月朔日	百日よびふ	七月朔日	四十日よびふ
七月朔日	百日よびふ	八月朔日	三十日よびふ
八月朔日	百日よびふ	九月朔日	二十日よびふ
九月朔日	百日よびふ	十月朔日	十日よびふ
十月朔日	百日よびふ	十一月朔日	一日よびふ
十一月朔日	百日よびふ	十二月朔日	一日よびふ

